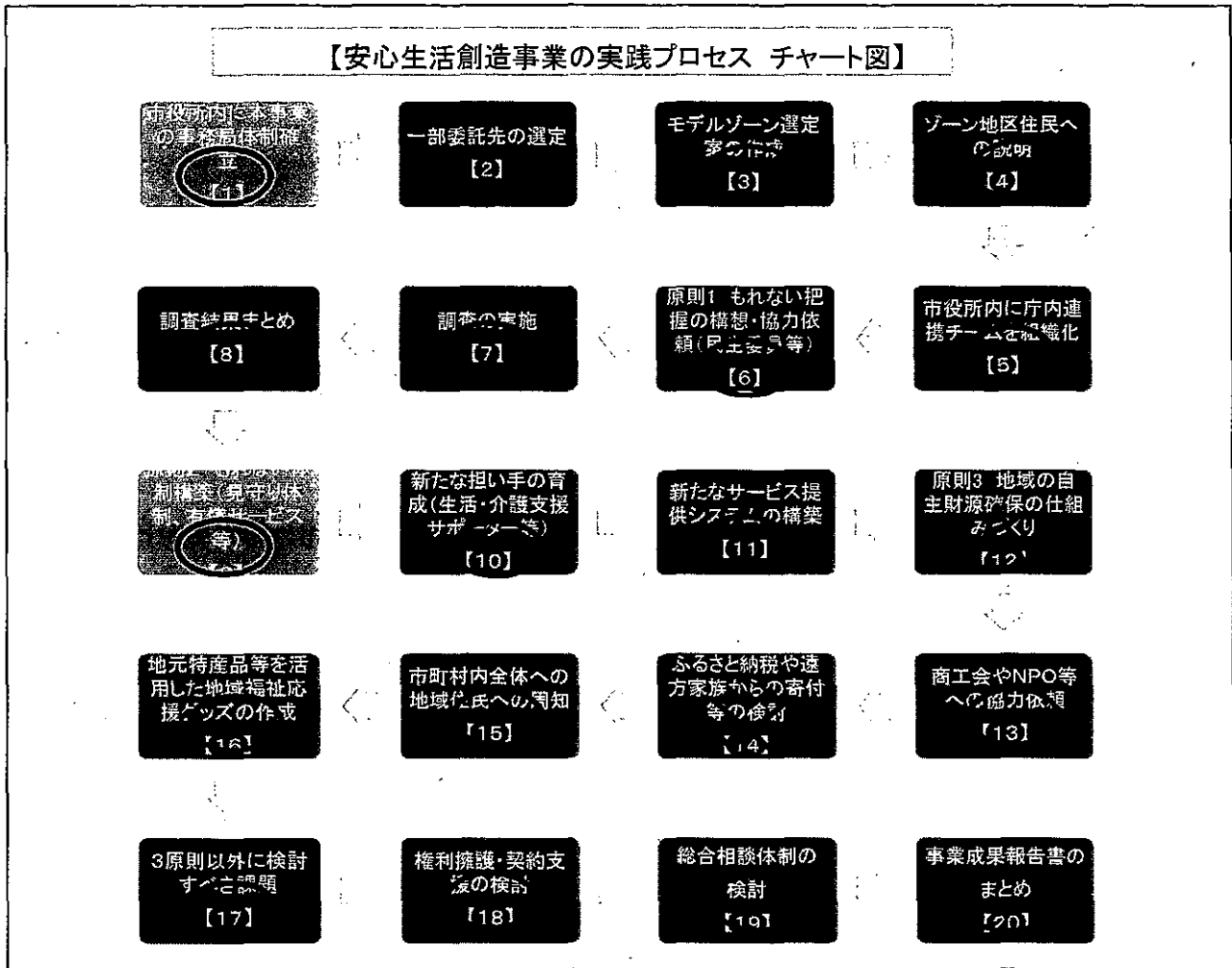


H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	大阪府	市町村名	豊中市	所属ブロック	近畿ブロック
人口(H24.10.1現在)	世帯数(H24.10.1現在)		高齢化率(H24.10.1現在)	ゾーン人口	
(人)	(世帯)		(%)	(人)	
397,108	180,781		22.70%	397,108	

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的内容・理由
12	△	東日本大震災発生後に、募金箱を事業者へ設置したため、市民の意識が当該事業に向かず、募金を募ることが出来なかったと考えられる。
14	×	本市の基金の活用について検討を行った結果、福祉全般に使用することが出来るが、事業費や委託費といった内容に充当するよりも、施設の修繕や備品購入等に充てる方が適当であるとの結論に至ったため。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

- ・見守り体制の構築(有償の見守り・安心コール・地域の見守り体制の拡大)
- ・ニーズの把握
- ・民間事業者等とのパートナーシップの構築
- ・利用者の要望に応じたサービス内容の充実

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの選定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

・北東部と南部の2圏域に限定して事業をスタート。共通して高齢化率が高くひとり暮らし高齢者が比較的多い地区を選定。地域特性を配慮した基準としては、人口流動の多いことによりコミュニティが安定しいく地区と人情味あふれご近所同士の助け合いがのこる地区を選定した。

イ. 部局内の連携の仕方

・要綱を設け、庁内連絡会を設置することで、幅広く現状を把握し知恵を出し合うことが出来る。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

・庁内会議をはじめ、学識経験者等が参画した推進委員会等を設置することで、情報の共有や知恵を出し合うことが出来る。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

・健康状態、日常生活の困りごとなどの質問項目により生活実態を把握することや福祉施策に結び付ける質問項目を設けてニーズの掘り起こしを行い、対象者の把握が進んだ。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

・対象者のニーズ把握のなかで、当該事業の利用の意向確認だけに限らず、関係機関等が提供しているサービス等の意向確認もあわせて行うことで、ニーズ別の名簿を作成することが出来る。

カ. 個人情報の取り扱い方

・豊中市個人情報保護条例に基づき、事業を実施する。アンケート調査から地域福祉コーディネーターの訪問調査への移行については、アンケート調査において、連絡先など個人情報の提供の可否について確認する。また、その後の安心生活創造事業開始後において、他の事業・サービスを紹介する場合においても、そのつど個人情報の提供の可否の確認を行う。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

・基礎講習(制度施策や事業)と時事研修の実施。
・訪問員のアンケート調査の実施。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

・民間事業者を活用した募金箱の設置。

ケ. その他

・行政だけのアプローチではなく、社会福祉協議会をはじめ住民・企業等新しい公共の視点で支えるしくみづくりを構築することが必要です。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	新潟県	市町村名	新潟市	所属ブロック	中部ブロック
人口(H24.9.30現在)	世帯数(H24.9.30現在)		高齢化率(H24.9.30現在)	ゾーン人口	
(人)	(世帯)		(%)	(人)	
803,419	318,512		24.3	2,383	

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
【3】	△	当初広い区域設定したが、もれない把握が困難なため、モデル地区として区域を再設定した。
【5】	△	福祉担当部局・担当区役所との連携のみであった。
【10】	△	「生活介護サポーター養成講座」を実施したが、具体的な活動までつなげられなかった。
【12】	△	買い物支援事業の協賛金の他に社会福祉協議会の会員会費を財源にできないか関係者と協議を進めたが、活動費への充当は困難であった。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

【見守りの取り組み】

地域住民や新聞・電気・ガス・商店等の協力による異変発見時に速やかに専門機関につなげるための見守り体制を整備するとともに、モデル地区内では「地域支え合いマップ」の作成を通して住民の支え合い・助け合い意識が醸成され、住民主体の見守り活動につながった。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの選定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

・当初中学校区管内を圏域に設定したが、漏れない把握が困難なためその中からモデル地区を設定した。

イ. 部局内の連携の仕方

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

・委託先社会福祉法人・社協・行政・民生委員で「買い物」・「見守り」・「マップ」で部会を設置。
・地元商工振興会と協力関係を結び、宅配等ができる店の名簿を作成、見守りの協力も得る。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

・モデル地区内の全世帯に調査票を配付しアンケート調査を実施するとともに、一人暮らし高齢者へは訪問による実態把握調査を行った。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

・「地域支え合いマップ」の作成により、地域とのつながりがない人を浮かびあがらせるとともに、住民の支え合い・助け合い意識の醸成にもつながった。

カ. 個人情報の取り扱い方

・全世帯アンケート調査時に関係機関による情報の共有の了解を得た。
・行政がもつ高齢者名簿をベースに一人暮らし高齢者を訪問調査し、調査時に了解を得た。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

ク. 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他

・関係機関の役割分担について共有して事業を推進する(特に、本市は委託先が地域の社会福祉法人であったため、そこと社会福祉協議会との関係の整理に苦勞した)。
・補助事業終了後の体制についても考えながら進めていく。

※ このアンケートは人口規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会の詳細につきましては、追ってお知らせいたします。

御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	埼玉県	市町村名	さいたま市	所属ブロック	
人口(H24.10.1現在)	世帯数(H24.10.1現在)	高齢化率(H24.10.1現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
1,243,826	534,529	19.89			

問1. 下記の実践プロセスのうち、現時点でうまく進んでいる過程には○を、実行が難しい過程には△を、実行できない過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
	△/×	平成24年度(初年度)については、自らSOSのサインを出せない、出さない、出したくないという住民票の無い方に対して、困ったことを安心して相談できる窓口を周知するため、リーフレットを全戸配布した。
		その後の取り組みとして、要支援者を早期に発見・通報するため、通報のガイドラインを作成し、ライフライン等事業者が訪問先で異変に気付いた際、市への通報に協力する協定書を10月3日に締結をしたところである。

問2. 安心生活創造事業を行うにあたり、重点的に取り組んでいること(予定も可)は何ですか？
下記に御記入ください。

平成25年度の取り組みとして、通報を受けた対象者の情報収集や訪問など安否確認をする専属の職員(再任用)を配置する。また、通常は民生委員や自治会と連携し、高齢者世帯を中心に市内を循環・訪問することで、要支援者を早期に発見し、孤立死の防止を図る。

問3. 安心生活創造事業を行うにあたり、やり方がわからないこと・実施済み市町村へ聞いてみたいことを、◎・○で優先順位をつけて下記から選んでください。また下記以外にあれば「ケ. その他」に御記入ください。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

イ. 部局内の連携の仕方

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

◎カ. 個人情報の取り扱い方

○キ. 見守りをするための支援する人(訪問員等)の養成のノウハウ

ク. 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他

問4. 安心生活創造事業への意気込み、厚生労働省への要望等、自由に御記入ください。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。

【第8分科会】

テーマ：訪問員の養成ノウハウ

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	鳥取県	市町村名	日吉津村	所属ブロック	中国・四国ブロック
人口(H24.3.31現在)	世帯数(H24.3.31現在)	高齢化率(H24.3.31現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
3,393	1,054	23	3,393		

問1. 下記の実践プロセスのうち、現時点でうまく進んでいる過程には○を、実行が難しい過程には△を、実行できない過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由

問2. 安心生活創造事業を行うにあたり、重点的に取り組んでいること(予定も可)は何ですか？
下記に御記入ください。

○支援体制作り

社協にて、定期的に相談会を開催し、支援が必要な方の見守り等につなげる。

問3. 安心生活創造事業を行うにあたり、やり方がわからないこと・実施済み市町村へ聞いてみたいことを、◎・○で優先順位をつけて下記から選んでください。また下記以外にあれば「ケ. その他」に御記入ください。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

イ. 部局内の連携の仕方

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

カ. 個人情報の取り扱い方

ケ. 見守りをするための支援する人(訪問員等)の養成のノウハウ

コ. 自主財源確保のためのアイデア

ク. その他

問4. 安心生活創造事業への意気込み、厚生労働省への要望等、自由に御記入ください。

日吉津村は人口が約3,000人、面積が約4.2平方Kmと小さな村です。この小さいというスケールメリットを活かし、この事業に取り組みたいと考えています。

顔が見える支援を心がけ、要援護者だけではなく、村民全員が安心して暮らせる地域づくりをしていきたいです。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

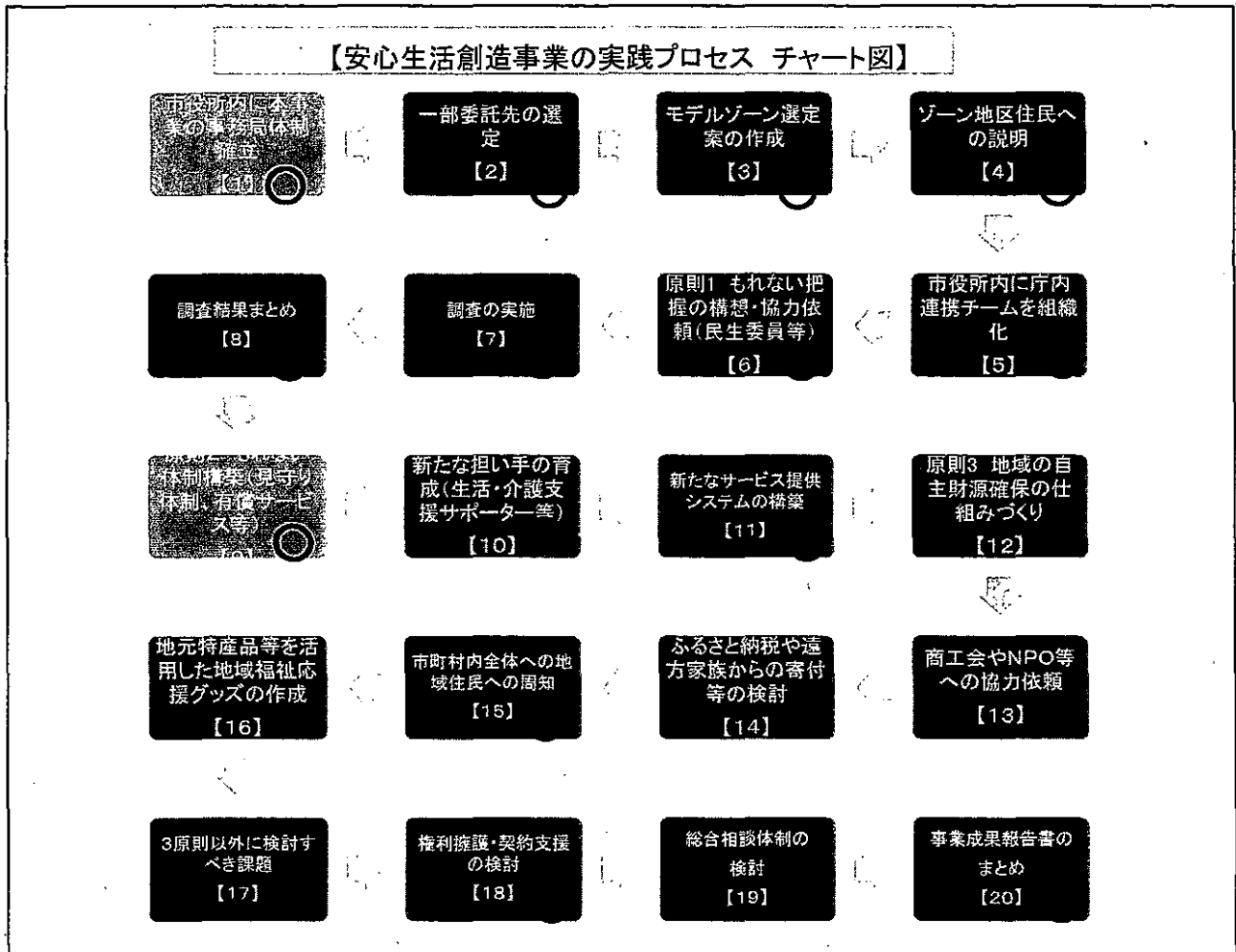
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	宮崎県	市町村名	美郷町	所属ブロック	九州
人口(H24.10.1現在)	世帯数(H24.10.1現在)	高齢化率(H23.10.1現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
5,952	2,496	43.1	5,952		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的内容・理由】

過程番号	△/×	具体的内容・理由
12	×	平成23年度末から運用を開始したメール配信事業により、町内独居高齢者の町外に住む身内に対しふるさと納税や社協への寄付金をPR予定。 ※実績なし
13	△	買い物難民対策ということで商工会と連携し「買い物代行業業」や「安否確認を兼ねた御用聞き事業」を試行したが、需要や手数料収入が少ないため一部地域の継続にとどまっている。
14	△	平成23年度末から運用を開始したメール配信事業により、町内独居高齢者の町外に住む身内に対しふるさと納税や社協への寄付金をPR予定。 ※実績なし
16	×	実施なし

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

・見守り対象者の情報(氏名、生年月日、訪問事情報等)を関係者(行政や社協、地域包括職員、民生委員等)で共有できる仕組みづくり。
・洩れない仕組みづくりとして、民生委員との協働により「見守りカード作成」「気になる人を探せ」事業の実施。
・安心訪問員による定期訪問と関係者による定例会(情報共有、支援の具体化)の実施。
・見守り員制度の創設。
・メールを利用した情報発信の仕組みづくり。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの選定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

自治体の規模が小さいため全町を対象とした。

イ. 部局内の連携の仕方

安心定例会を各区(旧村3地区)で月1回開催し、訪問時の状況等を基に包括的に連携できる体制を整えている。

※安心訪問員、地域包括支援センター、保健師、看護師長、行政担当で構成

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

関係職員(行政や社協、包括職員等)で情報を共有し、訪問時情報等の履歴を管理するために安心ネットシステムを構築した。これにより行政や社協等が組織の垣根を越えて情報を共有することが可能となり、効率的で洩れない支援づくりの体制が整えられた。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

平成21年7月～12月に65歳以上がいる世帯を対象に実施した。回収率90.5%となった。質問の項目としては、自宅で生活するうえで不安に思うことがあるか。楽しみや生きがいはあるか。福祉施策に望む事等。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

基盤支援対象者台帳については、美郷町安心ネットワークシステム内において作成。マップについては作成してない。(更新が困難であるため)

カ. 個人情報の取り扱い方

町個人情報保護条例に基づき、委託先(社協)に対し事業実施に最低限必要な情報を行政が提供している。また社協との委託契約に基づき、訪問員(社協職員)に守秘義務を課している。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

個人情報についての研修は実施したが、訪問については当初から手探り状態の中で、定例会や民生委員の意見を参考にしながら実施してきた。安心瓦版(情報誌)を作成、持参し信頼関係の醸成に努めた。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

平成23年度末から運用を開始したメール配信事業(町外に住む身内への月1回の近況報告)により、町外の身内に対しふるさと納税や社協への寄付金をPRする。

ケ. その他

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

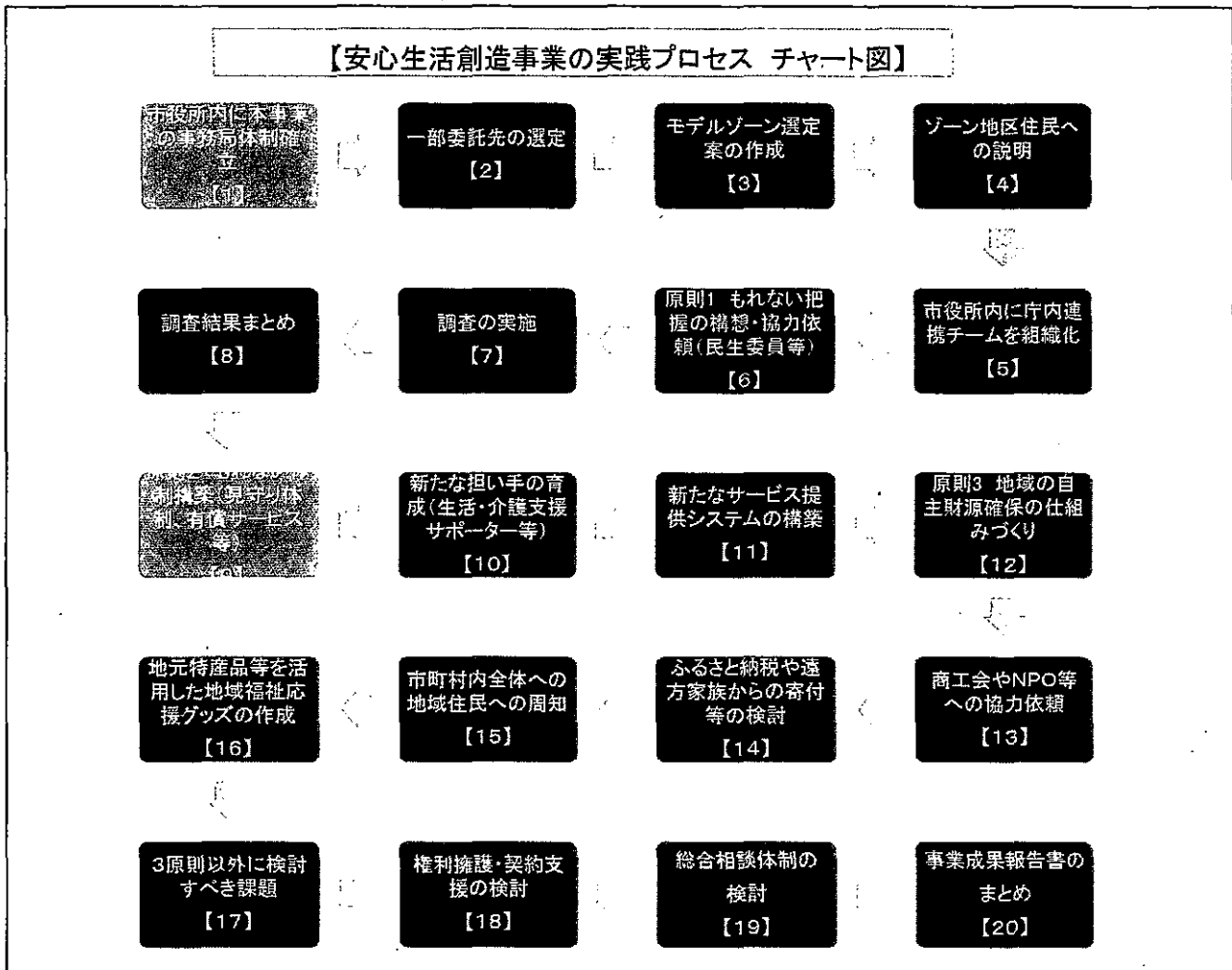
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	長野県	市町村名	軽井沢町	所属ブロック	中部
人口(H24.9.1 現在)	世帯数(H24.9.1 現在)	高齢化率(H24.9.1 現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
19,802	8,961	25.96	19,802		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
4	○	
6	○	
7	○	
8	○	
9	○	
10	○	
11	○	
12	○	

13	○	
15	△	民生委員、関係者、広報等で周知しているが、自治会未加入者や地域との関わりが少ない人までは、情報が届いていないケースがある。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

○綿密な調査実施し、軽井沢町特有の地域ごとの特色とニーズを把握。小地域にこだわった支援体制の構築や必要なサービスを開発し、実施した。
 ○見守り体制の構築並びに見守りに関する情報を一元化。
 ○住民参加型の支え合い活動(地域通貨 安心ほっと生活サポート)を立ち上げ、地域の関係性の中で支え合い、問題や困りごとにも解決できる仕組みづくり。
 ○福祉関係者だけでなく、商工会、商店会等と協働して、町づくり、地域づくりを行った。
 ○ニーズに合った買い物支援の仕組みづくり。
 ○安心生活創造事業で各種事業を行い、トータルで事業継続のための財源を確保した。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

ニーズ調査を実施し、小地域ごとに分析する。
 事業を市内一律で行うのではなく、それぞれの地域にあった事業展開や仕組みづくりを行う。

イ. 部局内の連携の仕方

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

関係機関同士での情報の共有。
 民間事業者とは、定期的な会議を開き、問題解決や互いの長所を活かしていく。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

- ・生活上の困りごとの把握
- ・必要とされるサービスの把握
- ・住民からの住みやすい地域になるための提案をしてもらう。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

支援台帳は、同意方式。
 マップ作成は、支援台帳登録者に対して、自治会ごとに区関係者、地区社協関係者、民生委員、消防団等が集まり、地図上に要支援者と支援する側を落していく。

カ. 個人情報の取り扱い方

同意した台帳登録者に対しては、行政、社協、民生委員、その他の関係者で情報を共有する。
 また、住民支え合い活動(災害時等)支援希望者登録台帳においては、行政が管理している。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

研修会の開催と福祉専門家に合わせるのではなく、住民に合わせていく。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

一方だけが負担する、一方だけが得をするのではなく、利用する側も支える側も関係する側も全てがメリットのある仕組みづくりをする。(地域通貨ルイザ、買い物支援の安心ほっとサロン等)

ケ. その他

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
 御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	京都府	市町村名	南丹市	所属ブロック	近畿
人口(H24.9.30 現在)	世帯数(H24.9.30 現在)	高齢化率(H24.9.30 現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
34,093	13,684	30.4	9,891		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
5	△	組織化は行えたが、実際活用するまでにいかなかった。
9	△	事業開始時はもれない体制をとっていけたが、事業後半では対象者のローリング等が不十分な点もあった。
12	×	共同募金からの配分は結果的になかった。共同提案で募金型の自動販売機に設置はで
14	△	遠方家族へのアプローチができなかった。

15	×	ゾーン内での事業展開となり、全市に広げての事業とは出来なかった。
16	×	商工会との協議は行えたが、特産品やグッズの作成までは出来なかった。
20	△	一定の報告まとめは出来たが、包括支援センターと一体でのまとめとなった。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

地域で疎遠となっている方の中には、初期の認知症等による判断力低下がみられる方が少なくなかった。このような方を地域で支えていく(地域とのトラブルや悪徳商法)ために権利擁護の必要性を感じた。このため、社協における権利擁護事業や後見制度に利用等に積極的に取り組んだ。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの選定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

市内でも過疎地域である合併前旧4町中2町を対象。

イ. 部局内の連携の仕方

部内高齢福祉部門、保健部門、地域の各支所と連携し事業を行った。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

運営委員会を設置して事業連携を図っていった。民生児童委員、商工会、老人クラブ等

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

対象者把握やニーズ把握のためのアンケートは行っていない。
対象者を選定する際、地域の民生児童委員と十分な協議・調整を行った。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

特に台帳もマップも作成していない。
月1回訪問調査員の連絡会議を開催し、対象者の状況等課題や心配な点、今後の対応等情報共有を行っている。

カ. 個人情報の取り扱い方

事業登録時に同意を取っている。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

本市においては、昼間に訪問できる人材が絶対的に少なく大変苦労した。
生活・介護サポーター養成事業を行い、地域で活躍いただける人材育成を行った。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

企業等資源の少ない本市においては民間企業からの寄付等は見込めない。
利用料の徴収も高齢者所得の低い本市で行いにくい。
他の地域福祉事業と関連を持たせ、事業そのものの経費を低額にするか、又は経費を発生させない工夫が必要。

ケ. その他

単独財源の厳しい本市のような自治体は一定の国及び府の財政支援が必要と考える。
額的に定額等でも財源裏づけがあれば事業継続しやすくなる。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	栃木県	市町村名	壬生町	所属ブロック	
人口(H24.9.30現在)	世帯数(H24.9.30現在)		高齢化率(H24.9.30現在)	ゾーン人口	
(人)	(世帯)		(%)	(人)	
39,820	14,802		23.19	3,495	

問1. 下記の実践プロセスのうち、現時点でうまく進んでいる過程には○を、実行が難しい過程には△を、実行できない過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的内容・理由】

過程番号	△/×	具体的内容・理由
3, 4	○	今回選定したモデル地区(3自治会)は、自治会内に防犯、防災に関する組織がすでにあり、住民説明会を実施しても反対する意見もなく理解が得られた。
6	○	全民生委員に抽出した住民データを提供し、訪問により実態調査を実施した。障害者世帯については、担当係から情報提供を受けた。

問2. 安心生活創造事業を行うにあたり、重点的に取り組んでいること(予定も可)は何ですか？
下記に御記入ください。

- 見守り支援が必要な人の把握
- 地域見守りチーム員の確保、養成

問3. 安心生活創造事業を行うにあたり、やり方がわからないこと・実施済み市町村へ聞いてみたいことを、◎・○で優先順位をつけて下記から選んでください。また下記以外にあれば「ケ. その他」に御記入ください。(複数回答可)

- ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)
- イ. 部局内の連携の仕方
- ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方(○)
- エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容
- オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方
- カ. 個人情報の取り扱い方
- キ. 見守りをするための支援する人(訪問員等)の養成のノウハウ(◎)
- ク. 自主財源確保のためのアイデア(○)
- ケ. その他

問4. 安心生活創造事業への意気込み、厚生労働省への要望等、自由に御記入ください。

- 本町においては本年度から始めた事業であるので、先例市町の事例を参考に研究し、成果を上げたい。
- 中小町村では近年の経済不況により自主財源の確保が非常に厳しい状況であり、補助率を下げても安心生活創造事業補助を継続していただければありがたい。

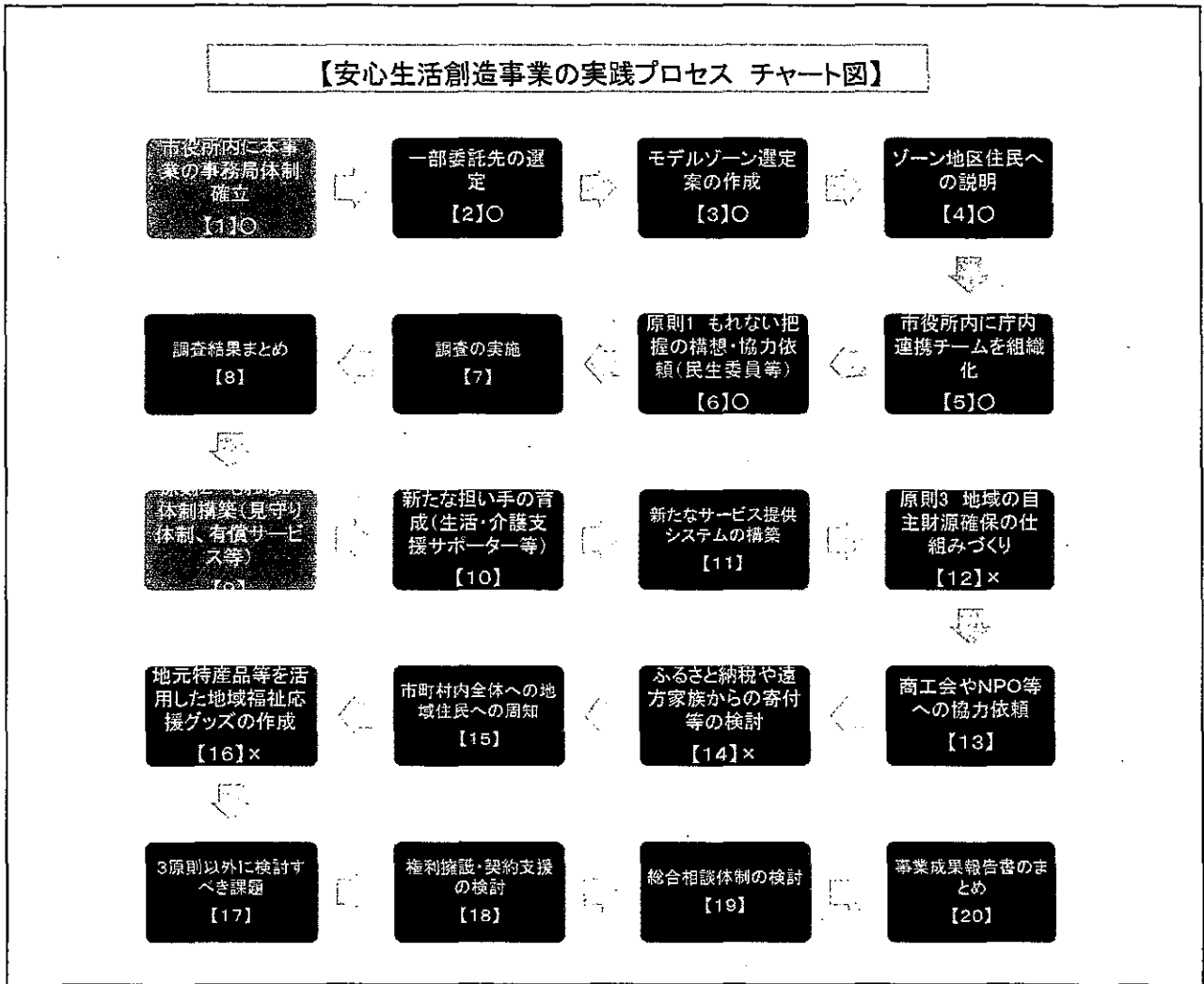
※ このアンケートは人口規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	愛知県	市町村名	長久手市	所属ブロック	
人口(H24.9.30現在)	世帯数(H24.9.30現在)	高齢化率(H24.9.30現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
51175	20419	14.4			

問1. 下記の実践プロセスのうち、現時点でうまく進んでいる過程には○を、実行が難しい過程には△を、実行できない過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません) また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
12	×	地域福祉計画及び地域福祉活動計画を策定するものであり、そのことがすぐには、自主財源確保にはつながらない。
14	×	地域福祉計画及び地域福祉活動計画を策定するものであり、そのことがふるさと納税や遠方家族からの援助にはつながらない。
16	×	地域福祉計画及び地域福祉活動計画を策定するものであり、そのことが地域福祉応援グッズの作成にはつながらない。

問2. 安心生活創造事業を行うにあたり、重点的に取り組んでいること(予定も可)は何ですか？
下記に御記入ください。

地域福祉計画及び地域福祉活動計画を策定するにあたり、広く住民からの意見を聞くことができるよう、地区懇談会は小学校区ごとに設定し、アンケートを全世帯に調査することとした。また、団体ヒヤリングについては、部門別に複数回実施することで意見を深く聞きとれるよう、住民が作り上げる計画であることを前面に押し出して進めていく。

問3. 安心生活創造事業を行うにあたり、やり方がわからないこと・実施済み市町村へ聞いてみたいことを、◎・○で優先順位をつけて下記から選んでください。また下記以外にあれば「ケ. その他」に御記入ください。(複数回答可)

- ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)
- イ. 部局内の連携の仕方
- ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方
- エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容 ◎
- オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方
- カ. 個人情報の取り扱い方
- キ. 見守りをするための支援する人(訪問員等)の養成のノウハウ ○
- ク. 自主財源確保のためのアイデア ○
- ケ. その他

問4. 安心生活創造事業への意気込み、厚生労働省への要望等、自由に御記入ください。

本事業に手を挙げることで、事業の遂行の考え方が大きく変わってきました。
今後も、国や県と連携を強化し、本市市長の掲げる「日本一の福祉のまち」が実現できるよう努力していきたいと考えています。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

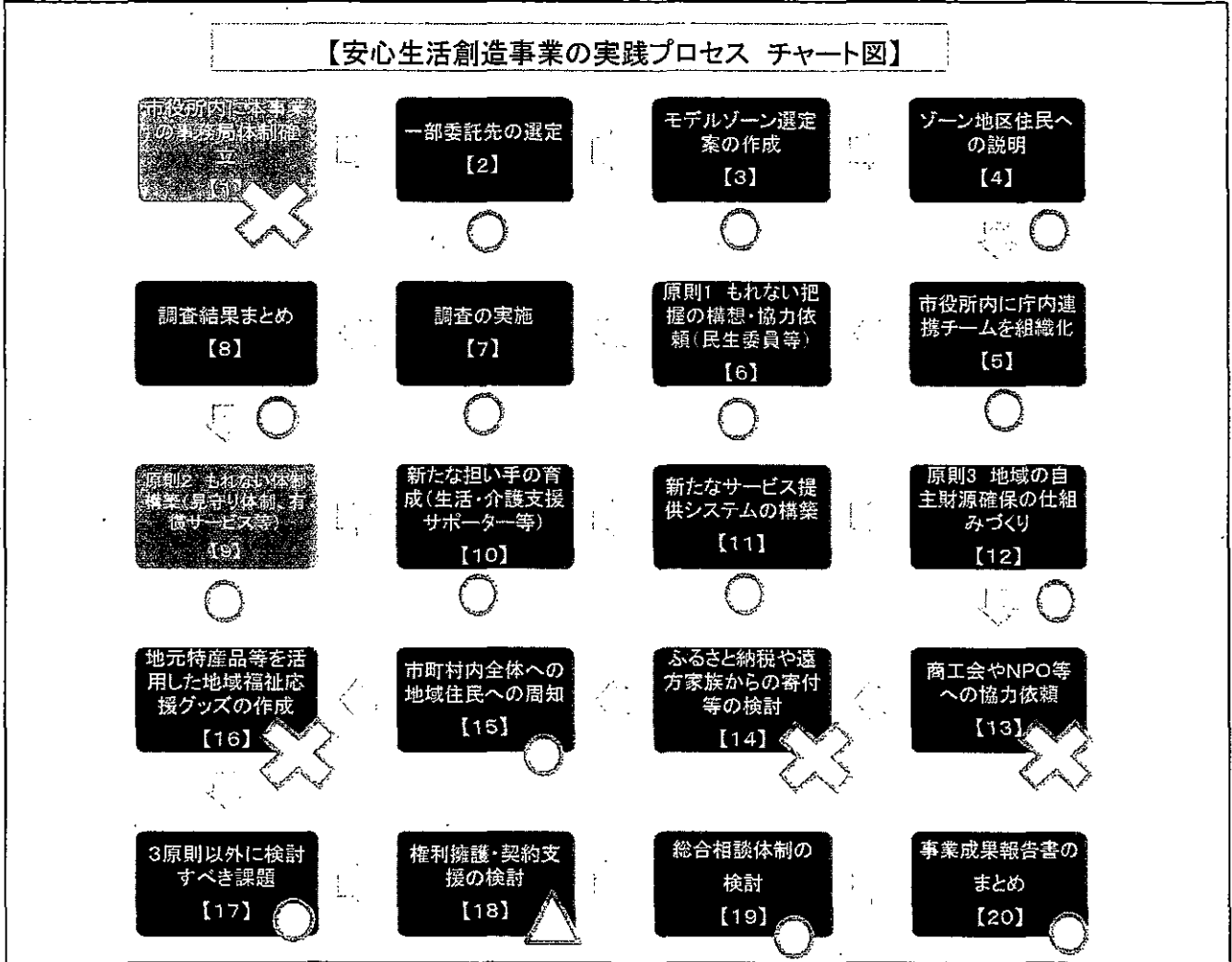
※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	奈良県	市町村名	天理市	所属ブロック	
人口(H 24.10.1現在)	世帯数(H 24.10.1現在)	高齢化率(H24.10.1現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
68,286	29,550	21.34			

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的内容・理由
13.14.16	×	3年間という期間では、確立する事ができなかった。
18	△	平成24年度より、入院時、アパートやマンション等の入居時の保証人として、その担い手となる人材を平成21年度より養成をしている、生活・介護支援サポーターを対象に養成し、市民保証人の制度化を目指す。